

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	日本赤十字九州国際看護大学
設置者名	学校法人 日本赤十字学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
看護学部	看護学科	夜・通信		41	97	138	13	
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学内WEBシステムおよびホームページ https://www.jrkcicn.ac.jp/faculty/faculty04/faculty04-4/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本赤十字九州国際看護大学
設置者名	学校法人 日本赤十字学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

R5.4.1.pdf (jrc.ac.jp)
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	日本赤十字社 副社長	R4. 7. 1 ～在職期間	理事長を補佐し、法人の業務を掌理する
非常勤	日本赤十字社 医療事業推進本部 本部長	R4. 4. 1 ～在職期間	理事長を補佐し、法人の業務を総括的に掌理する
非常勤	日本赤十字社 医療事業推進本部 副本部長兼看護部長	R3. 4. 1 ～在職期間	理事長を補佐し、法人の教学関係業務を分担する
非常勤	日本赤十字社代表支部 事務局長会 会長（日本赤十字社東京都支部事務局長）	R4. 7. 1 ～在職期間	全国の日赤支部の関係からの助言、提言等
非常勤	一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 理事	R5. 4. 1 ～R7. 3. 31	看護師の育成に関する助言、提言等
非常勤	公立大学法人三重県立看護大学 理事長・学長	R4. 4. 1 ～R6. 3. 31	有識者（大学・教育関連）の助言、提言等
非常勤	東京国立博物館長	R4. 4. 1 ～R6. 3. 31	有識者（大学・教育関連）の助言、提言等
非常勤	学校法人尚美学園理事長・尚美学園大学学長	H30. 4. 1 ～R6. 3. 31	有識者（大学・教育関連）の助言、提言等
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本赤十字九州国際看護大学
設置者名	学校法人 日本赤十字学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバス作成のためのFDを実施(1月初旬)</p> <p><シラバス記載項目></p> <p>当該科目で育成するDPの力、到達目標、授業計画、学修課題(予習、復習)、先行履修科目(ある場合)、テキスト、参考文献、評価方法、教員等の実務経験(ある場合)、メッセージ</p> <p>教務委員によるチェック、科目担当者による修正、教務委員会にて再確認の工程を経て、WEB上でシラバスを公開している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>WEBシラバス</p> <p>https://www.jrckicn.ac.jp/faculty/faculty04/faculty04-4/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>1) 科目担当者が、あらかじめシラバスに記載した評価方法に則り、科目履修者の評価を実施。</p> <p>2) 評価方法ごとの内訳得点を記載した「評点内訳表」を提出。</p> <p>3) 当該学期開講科目の評価を教務委員会で承認。</p> <p>以上の過程を経て、単位を与えている。その後、教授会で各学期の成績一覧を報告している。</p>	
<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
<p>評価およびGPを、90-100点・S・4、80-89点・A・3、70-79点・B・2、60-69点・C・1、59点以下・Dまたは無効・0とし、各評価を得た科目の単位数にGPを乗じた総和を総履修単位数で除したものをGPAとして算出している。</p> <p>下記の計算式及び、小数点第3位以下を四捨五入すること、総履修単位数に含むものと含まないもの、学期GPAと通算GPAの説明も公表している。</p>	
<p><計算式></p> $G P A = \frac{[Sの単位数 \times 4] + [Aの単位数 \times 3] + [Bの単位数 \times 2] + [Cの単位数 \times 1]}{総履修単位数}$	
<p>学生は、各自のGPAをポータルサイト上で確認することができ、併せて、学期ごとに配付する成績通知書にも記載している。また、学生に配付する成績通知書と同内容の成績通知書を保証人にも発送している。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<p>学生便覧/履修の手引き (冊子体)</p> <p>ホームページ</p> <p>https://www.jrckicn.ac.jp/faculty/faculty04/faculty04-6/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学ではディプロマ・ポリシーとして、卒業認定・学位授与に関する以下の方針を定めている。所定の単位を修め、次の能力を身につけた者に学士（看護学）の学位を授与する。

1. 人間の尊厳と権利を擁護する力

- (1) 幅広い教養を培うことによって豊かな人間性を育むことができる。
- (2) 赤十字の理念である人道に基づき、人間としての尊厳と権利を尊重・擁護することができる。

2. 自己教育力

- (1) 自らの思考や行動を内省することにより、自己の成長を促進することができる。
- (2) 自ら目標を設定し、主体的かつ自律的に継続して学習することができる。

3. チームで働く力

- (1) 集団の中で自己の果たしうる役割を理解し、他者と協働することができる。
- (2) グローバル社会における看護の役割と機能を多面的にとらえ、チームの一員として集団の力の最大化に努めることができる。

4. 問題解決力

- (1) 人間・環境・健康・看護・国際に関する知識を体系的に修得することにより、看護を必要とする個人・家族・集団・コミュニティを適切にとらえることができる。
- (2) グローバル社会における健康ニーズを把握し、科学的根拠に基づいた解決策を考え、実践・評価することができる。

5. 看護の専門性を探究する力

- (1) 看護の課題を探究する総合的な視野を培うことにより、看護を発展させるための基礎的能力を身につけている。
- (2) 看護職としての社会的使命を自覚し、人々の健康増進への関心と意欲をもち、研究的取り組みを通して、看護の発展に貢献することができる。

なお、卒業に必要な単位（124 単位以上）および卒業要件に係る単位数を一覧にして学生便覧/履修の手引き（冊子体）により、公表している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

学生便覧/履修の手引き（冊子体）の配布
ホームページ

○ディプロマ・ポリシー

<https://www.jrckicn.ac.jp/faculty/faculty02/#page06>

○科目一覧

<https://www.jrckicn.ac.jp/faculty/faculty04/faculty04-4/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	日本赤十字九州国際看護大学
設置者名	学校法人 日本赤十字学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ (https://www.jrc.ac.jp/public-info/)
収支計算書又は損益計算書	ホームページ (https://www.jrc.ac.jp/public-info/)
財産目録	ホームページ (https://www.jrc.ac.jp/public-info/)
事業報告書	ホームページ (https://www.jrc.ac.jp/public-info/)
監事による監査報告(書)	ホームページ (https://www.jrc.ac.jp/public-info/)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 事業計画収支予算 対象年度: 令和5年度)
公表方法: ホームページ(5.pdf(jrc.ac.jp))
中長期計画(名称: 学校法人日本赤十字学園 第三次中期計画～学園大学間の連携推進～ 対象年度: 2019年度(令和元年度)～2023年度(令和5年度))
公表方法: ホームページ(日本赤十字学園中期計画(jrc.ac.jp))

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページ https://www.jrckicn.ac.jp/release_new_b_jikotenken/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページ https://www.jrckicn.ac.jp/release_new_b_jikotenken/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 看護学部看護学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.jrckicn.ac.jp/faculty/faculty02/#page02 ）
（概要） 本学は、建学の精神である赤十字の理想とする人道的任務の達成を図るため、看護に関する学術を中心として、広く知識を授け、深く専門の学術を教授、研究するとともに、知性、道徳および応用的能力を養い、もって国内外で活躍できる実践力をもった看護専門職の育成および看護学の発展に寄与することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.jrckicn.ac.jp/faculty/faculty02/#page06 ）
（概要） 1. 「人間の尊厳と権利を擁護する力」 1. 幅広い教養を培うことによって豊かな人間性を育むことができる。 2. 赤十字の理念である人道に基づき、人間としての尊厳と権利を尊重・擁護することができる。 2. 「自己教育力」 1. 自らの思考や行動を内省することにより、自己の成長を促進することができる。 2. 自ら目標を設定し、主体的かつ自律的に継続して学習することができる。 3. 「チームで働く力」 1. 集団の中で自己の果たしうる役割を理解し、他者と協働することができる。 2. グローバル社会における看護の役割と機能を多面的にとらえ、チームの一員として集団の力の最大化に努めることができる。 4. 「問題解決力」 1. 人間・環境・健康・看護・国際に関する知識を体系的に修得することにより、看護を必要とする個人・家族・集団・コミュニティを適切にとらえることができる。 2. グローバル社会における健康ニーズを把握し、科学的根拠に基づいた解決策を考え、実践・評価することができる。 5. 「看護の専門性を探究する力」 1. 看護の課題を探究する総合的な視野を培うことにより、看護を発展させるための基礎的能力を身につけている。 2. 看護職としての社会的使命を自覚し、人々の健康増進への関心と意欲をもち、研究的取り組みを通して、看護の発展に貢献することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方 （公表方法： https://www.jrckicn.ac.jp/faculty/faculty02/#page05 ）

(概要)

本学の学士課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げる力を修得させるために、『リベラルアーツ・専門基礎科目』、『専門科目』を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する番号をふるナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。

教育課程編成、学修方法・学修過程、学修成果の評価については、以下のように定める。

1. 教育課程編成

- (1) 教育課程は、赤十字の理念を基盤として、その編成の主要概念を「人間・環境・健康・国際・看護」の5つとし、科目区分は『リベラルアーツ・専門基礎科目』『専門科目』とする。『リベラルアーツ・専門基礎科目』は、「人間・環境・健康・国際」により構成し、もう一つの主要概念の「看護」と有機的に連携を保つ。『専門科目』は、「看護の基盤」「看護の展開と応用」「看護の統合」に細分し、さらに看護学演習科目・実習科目についてはI～Vのレベルで段階的に学修できるように構成する。
- (2) リベラルアーツ・専門基礎科目のうちリベラルアーツ科目は、専門科目の基盤となる力を涵養する。また、専門科目の基礎となる自然科学・社会科学・人文科学の各科目を専門基礎科目として設定する。リベラルアーツ・専門基礎科目の多くは1、2年次に配置するが、専門科目との連動を意図して3、4年次にも配置する。一方、専門科目については、1年次から配置し、「看護の基盤」から対象の特性に応じた看護を学ぶ「看護の展開と応用」、そして既習の科目を統合する「看護の統合」へと段階的に学修できる構成とする。
- (3) 本学の特色を示す「国際」を具現化するために、英語を中心とした語学力及び多様な国の文化背景の知識を獲得する科目や赤十字の理念・歴史・活動を学ぶ赤十字概論等の赤十字関連科目、さらに、海外研修を含む国際関連科目を選択履修する「国際看護コース」を設置する。

2. 学修方法・学修過程

- (1) 初年次教育として、“人道の理念”を理解するための科目を1年次に履修し、看護職者として備えるべき【人間の尊厳と権利を擁護する力】を身につける。また、4年間を通じた学修基盤を培うため、【自己教育力】や【問題解決力】と関連する「基礎力総合ゼミナール」を中心に、大学での学修スキルを修得する。
- (2) 専門基礎科目である「人体の構造と機能」、「疾病と治療」等の科目を通じて、体系的かつ段階的に看護の基礎となる知識を修得する。
- (3) 講義・演習科目においては、討議、発表、グループ・ワークなどのアクティブ・ラーニングを含む多様な学修方法により【自己教育力】、【チームで働く力】等を身につける。
- (4) 実習科目においては、看護実践による対象者との関わりを通じて、講義・演習で学んだ知識や技術を実践の場で活用する。また、【問題解決力】、【看護の専門性を探究する力】等を用いて、問題発見—解決—評価のプロセスを主体的に学ぶ。
- (5) 専門科目を中心とする教育内容の統合を図り、【看護の専門性を探究する力】を身につけるため、4年次の「卒業研究」の履修によって、ディプロマ・ポリシーに示す力の到達を目指す。
- (6) キャリア教育として、職業観を養うための科目や演習・実習科目を設定する。学修成果を活かして社会の発展に関与できるよう、実習施設・就職施設・地域社会等とも連携し、正課並びに正課外プログラムを実施する。
- (7) 科目担当教員と、学修・生活上の指導助言を行うアカデミック・アドバイザー教員とが連携し、入学から卒業まで一貫して、ディプロマ・ポリシーに示す力を身につけられるよう、きめ細かで効果的な学修支援を行う。

3. 学修成果の評価

学生の学修成果の評価については、直接評価及び間接評価による様々な指標を用いて、多面的に評価し、可視化する。

入学者の受入れに関する方

(公表方法：<https://www.jrckicn.ac.jp/faculty/faculty02/#page04>)

(概要)

1. 赤十字の理念である人道に基づき、人間の尊厳と権利を理解する人
2. 大学で学ぶために必要な基礎的学力を有している人
3. 他者と良好な人間関係を築くことができる人
4. 自らの考えを適切に表現し、他者に明確に伝えることができる人
5. 国内外の保健・医療・福祉の分野で活躍する意欲のある人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

ホームページ

https://www.jrckicn.ac.jp/release_new_a_kyouikujouhou/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
看護学部	1人	—					1人
	—	13人	8人	9人	14人	1人	45人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		45人					45人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.jrckicn.ac.jp/guide/guide06/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
看護学部	100人	112人	112%	400人	435人	108%	人	人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	100人	112人	112%	400人	435人	108%	人	人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
看護学部	118人 (100%)	5人 (4.2%)	111人 (94.1%)	2人 (1.7%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	118人 (100%)	5人 (4.2%)	111人 (94.1%)	2人 (1.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバス作成のためのFDを実施（1月初旬）</p> <p>＜シラバス記載項目＞</p> <p>当該科目で育成するDPの力、到達目標、授業内容、授業方法、学修課題（予習、復習）、取組時間、授業回数、各回授業担当者、先行履修科目（ある場合）、テキスト、参考文献、評価方法、教員等の実務経験（ある場合）、メッセージ</p> <p>教務委員によるチェック、科目担当者による修正、教務委員会にて再確認の工程を経て、WEB上でシラバスを公開している。</p> <p>【公表の方法】：学内WEBシステムおよびホームページ (https://www.jrckien.ac.jp/faculty/faculty04/faculty04-4/)</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>各科目の評価は、</p> <p>1) 科目担当者が、あらかじめシラバスに記載した評価方法に則り、科目履修者の評価を実施</p> <p>2) 評価方法ごとの内訳得点を記載した「評点内訳表」を提出</p> <p>3) 各科目の評価を教務委員会で承認</p> <p>の工程を経て、単位を与えている。その後、教授会で該当学期の成績一覧を報告している。</p> <p>卒業は、本学に4年以上在学し、卒業認定に必要な単位の取得により、認定している。なお、卒業に必要な単位（124単位以上）及び卒業要件に係る単位数を一覧にして学生便覧/履修の手引き（冊子体）により公表している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
看護学部	看護学科	124単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.jrckicn.ac.jp/guide/guide07/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
看護学部	看護学科	1,100,000 円	300,000 円	400,000 円	その他 (実験実習料 200,000 円 維持管理費 200,000 円)
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ・アカデミック・アドバイザー（助教以上の全教員）による入学時から卒業時までの少人数ゼミの定期開催及び定期面談の実施。 ・看護師国家試験の模擬試験の学内実施。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ・外部業者によるセミナー ・先輩（看護職者）の講話等を主な内容とする就職セミナーの実施。 ・全国赤十字病院説明会の実施。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) ・健康診断結果に基づく学校医面談の実施。 ・スクール・カウンセラー（臨床心理士）への悩み相談。 ・電話・WEBによる相談窓口の開設。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページ <https://www.jrckicn.ac.jp/research/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F140310110847
学校名	日本赤十字九州国際看護大学
設置者名	学校法人 日本赤十字園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		59人	59人	62人
内 訳	第Ⅰ区分	32人	35人	
	第Ⅱ区分	18人	18人	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				62人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	-		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	0人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。